

橋を、未来へ。

橋の寿命を伸ばしたい。50年先、100年先へ。

名港西大橋（名港トリトン）：昭和59年施工実績



国内初となる弾性シール材型のケーブル角折れ緩衝材を開発しました。本商品をケーブル定着部の鋼製さや管内に充填し、ケーブルの曲げ対策を実施しました。また、鋼製さや管の先端には防水ゴムカバーを設置し、雨水などの浸水対策も行いました。

その後、同対策構造は名港トリトンの他2橋（名港中央大橋、名港東大橋）にもご採用いただきました。

気仙沼湾横断橋（かなえおおはし）：令和2年施工実績



角折れ緩衝材と防水ゴムカバーの併用構造は、近年では東北復興のシンボル「かなえおおはし」にもご採用いただき、ケーブル支持構造を有する数々の橋梁で実績を重ねております。

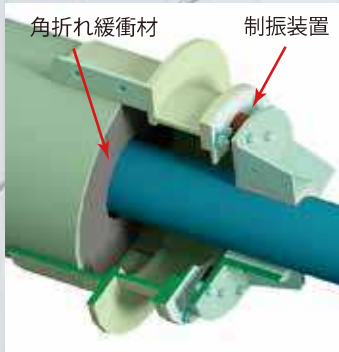
本橋梁では、前述の構造に加えて制振装置が併用設置されています。角折れ緩衝材には制振装置本来の機能を損なわない工夫が施されており、ケーブルの曲げ対策のほか、制振装置への過負荷対策として機能しています。

ケーブル防水・振動対策で、橋を守る。

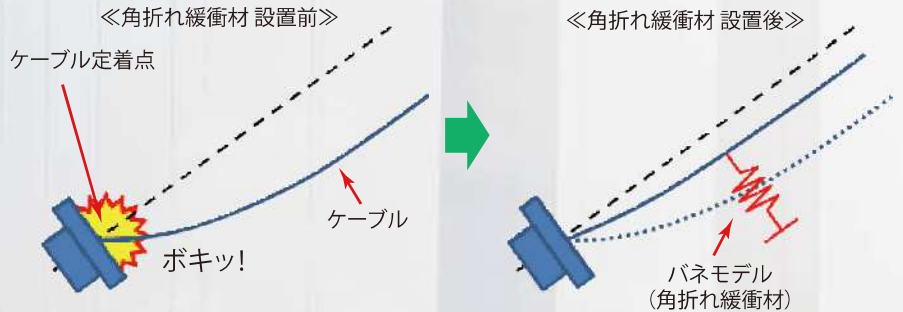
ケーブル補修提案のほか、ケーブルを腐食や曲げ疲労から守る対策をご提案いたします。

ケーブル角折れ緩衝材

粘弾性を有する弾性シール材が、ケーブルの変位をクッションのように受け止め、曲げ疲労を抑制します。



角折れ緩衝材と制振装置との併用イメージ



角折れ緩衝材によるケーブル定着点の角折れ抑制イメージ

ケーブルゴムカバー・ケーブルハット

橋梁本体のケーブル貫通孔にゴム製の防水カバーを設置し、孔内への浸水を防止します。

また、ケーブルに水切りハットを設置することで、ケーブルを伝う雨水がケーブル定着部に流れ込むのを防ぎます。



ケーブルゴムカバー外観写真



ハットをゴムカバー内側と先端外側に併用しているイメージ

脅威に備える、「末永く美しく、強い橋づくり」のひと工夫。

四季折々な気候に加え、地震、台風といった幾多の自然の脅威に晒される我が国の環境は、斜張橋のようにケーブル支持構造を有する橋梁にはとりわけ厳しい環境です。

細長く、揺れ動きやすいケーブルをこれらの脅威から守るためには、ケーブル揺動の影響を抑える曲げ対策と、ケーブル揺動にも追従できる浸水対策が重要です。

私たち中井商工は、震災復興工事へ携わった経験から自然の脅威を改めて痛感し、ケーブル構造の長期運用に向けたご提案を続けております。

私たちはこれからも、1972年の創業以来培ってきた技術力で、橋梁の未来を守る「ひと工夫」をご提案いたします。そして50年、100年と次世代へ社会資本を繋いでいく意志を胸に、さらなる進化を遂げながら、皆様とともに歩み続けます。



あらゆる隙間にチャレンジします

NAKAI
中井商工株式会社
<https://www.nakaishoko.co.jp>



【広告企画】